

## 主の降誕 夜半のミサ

ルカ 2・1-14

2023.12.24 19:00 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

わたしたちは、今日、ほんとに久しぶりに大勢がこの聖堂の中で集まってご降誕のごミサを共にお捧げしています。改めて、そのような機会を持つことができたことを神様に感謝したいと思います。今日、この後にお一人の方が洗礼を受けられます。新しい神の民に、新しい家族を与えてくださったその恵みにも感謝しなければなりません。

わたしたちは毎年クリスマスのごミサを、集まってではないにしても——去年までは分散してですが——お祝いしておりましたけれども、このクリスマスを通してお祝いするのは、お生まれになったイエスさまの周りにすべての人が呼び集められるという、その恵みです。クリスマスを準備する待降節の間に、既に多くの教会では待降節、「これからクリスマスを準備するんですよ」ということを表わすために、クリスマス情景を表わすお人形のセットを飾って、しかし「まだクリスマスは来ていないんですよ」っていうことをも表すために、真ん中の赤ちゃんのイエス様がいらっしゃる場所はまだ空けておくっていう、そういう形で表します。それ以外のやり方がなかなかないからなんですけども、でも本当は、お生まれになった赤ちゃん、イエス様がいらっしゃるから、周りにみんなが集まって来るっていうことです。みんなが集まっていて、「さあ、ここに来てください」っていう、そういうようなところではないんです。

ですから、わたしたちは、ほんとはイエス様の周りに呼び集められたっていう、そしてそこに集まって来る人同士が、本当は関係なかったのにイエス様を通して繋がる。ナザレの貧しい旅人の夫婦とユダヤの地方の羊飼いが、人生が交わることがなかったのに、でもお生まれになった救い主を通して神様が出合わせる。そこが、ささやかな形ながらクリスマスの最初の状況には表れてます。

今日、このキリスト教のクリスマス——この高円寺教会に限らずですけど——の祝いに初めていらっしゃったっていう方もおいでになるかもしれません。そういう方は

良くいらっしやいました。そして「久しぶりに教会に来ることができましたよ」っていう方もいらっしやるかもしれません。その方々はほんとにお互い再会を祝い合いたいと思います。

先程、ミサの前に侍者の人たちに「クリスマスって聞いて、何を思い浮かべますか？」って順番に聞いてみたんです。それぞれ色々言ってくださいましたけど、若者たちは、この侍者の仕事がクリスマスにはあるという、そういうイメージで思い起こしてくださっています。クリスマスになったら——クリスマス以外でもやっていいんですけどね。そのほかの時期に禁止されているということはないんです。しかし、でもまあこの時期には役割があるからっていうことで——、その他にいろんな用事があっても、クリスマスの時だけは侍者の奉仕をずっとして来だし、それが役割なんだからって思って奉仕してくれています。これからもっと歳が進んで、いろんな付き合いとか出会いがあったりして、友だち同士で過ごすクリスマス、恋人ができたりとか——今もあるかもしれませんけども——そういうような事情の中で、また遠くに引越したり、クリスマスだけ教会のお祝いには、ミサには出ないで、それぞれの友人や自分たちの中でクリスマスという行事を行うっていう年がこれから出て来るかもしれません、若い人たちは、今日侍者の奉仕をしてくれている人たちも、です。でも、そんなときでもきっと完全に教会のクリスマスのお祝いを忘れてしまうということはないんでしょう。楽しく過ごしながらも、でも心のどこかでは呵責かしゃくを感じると言いましょうか、そういうなんか今から呪いをかけるみたいなことを言っても申し訳ないんですけども、「ああ、今頃教会ではクリスマスのごミサをしてるんだらうなあ」っていうのがどっかにあるっていうことなんだと思います。一度人生の中でお生まれになったイエス様は決して消えていなくなるということはないわけなんです。そして、そのイエス様のもとに帰らない限りは安らぎということを完全には言えないという、それが、神様が救いのわざを始められたならば後戻りすることはないということでしょう。そういう恵みの現実を反映している。だから気分だけのことではない。そういう心の中の呼びかけを頂いたということなんじゃないかと思うんです。

わたしたちもそうですね。このように信仰を通してクリスマスのお祝いに呼ばれた者たちは、自分の中の楽しみの中だけに決して戻ることは出来ないんです。この日にはこれだけでは何か足りないような気がするのだと思います。そうなんです。自分の目に見えているもの、自分の楽しみを超えて、多くの人と直接出会わなくても祈りを

通して繋がるように、っていう、その招きは、一度心の中にそれを与えられたならば、もう消えることはないということが言えると思います。

今日は、特にここに集まったわたしたち、でもそれを越えて世界のすべての人のために、クリスマスっていうのは平和を願う時でもあるわけです。いろんな中で対立とか紛争とか、また孤独の中にある、色々な問題がある中であって、すべての人のために、わたしたちがこのごミサを通して、神様の恵みが現れて、そして出会い、そこに向かってみんなが集められていくように、という思いで共に祈りたいと思います。そのようにして、わたしたちのささやかなこのクリスマスの祈りが神様の御手の中で用いられて、今本当の意味で助けを必要としている、苦しみの中にいる誰かの慰めになる、そのように用いられるということを信じて、このごミサを通して互いのために祈り合いたいと思います。

それでは、これから、神様が与えてくださった救いの新しい段階をお祝いするクリスマスに当たって、新しい人生の信仰の歩みを始めようとされている方をお迎えして、洗礼式に移って行きたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>